

武雄市文化施設のあり方検討委員会会議録

日 時	場 所	出 席
令和8年5月19日(火) 9:30 ~12:05	武雄公民館 1階会議室	☐ 委員(山口夕妃子氏、本田恵介氏、黒澤伸氏(リモート)、 山口昌宏氏、埋ノ江孝子氏(鐘ヶ江氏代理)、望月美都輔氏、 坂口勉氏、山下裕輔氏、井手静雄氏、深町恵介氏、松尾寛氏) ☐ 事務局 こども教育部 文化課 (説明 企画政策課 財政課)
1. 協議件名		第2回 武雄市文化施設のあり方検討委員会

議事録

*会議を始める前に文化会館大ホール及び新文化交流施設エリアの現地見学を行った。

1. 開会

- ・武雄市議会福祉文教常任委員の吉原委員⇒山口委員に変更
- ・黒澤顧問の所属が(公財)金沢芸術創造財団⇒東京家政大学共創デザイン学部に変更

2. 議事

(1)文化施設・文化活動の現状と課題について

【1】武雄市の人口について(企画政策課より)

- ・武雄市の人口は2025年に約4万7000人、2060年には約3万2000人まで減少する見込みであり、35年間で約1万5000人の減少が予測されている。
- ・人口減少の要因として、自然減(出生数の減少)と社会減(若者の進学や就職による流出)があげられる。自然減では2003年以降、死亡者数が出生数を上回る自然減の状況が続いている。また、社会減(若者の進学や就職による流出)では武雄市に転入数より転出数が上回っている。
- ・武雄市では、人口減少対策として自然減対策(子育て、教育環境の充実など)と社会減対策(移住定住促進、郷土愛の醸成など)を進め、2060年に4万人程度を維持していく目標を掲げている。

【2】武雄市の財政運営の課題について(財政課より)

- ・武雄市の財政状況は、人口減少に伴う市税や地方税の減少が予測される一方で、高齢者福祉や障害者福祉の充実による扶助費が増加傾向。
- ・公共施設の老朽化に伴い、維持管理費の縮減が必要であり、施設の複合化、多機能化、長寿命化を図ることで更新費用の削減を目指している。
- ・武雄市の財政収支見通しでは、令和8年度から12年度までの間に歳出が歳入を上回る財源不足が続き、総額30億円に達する見込みである。
- ・財源不足を解消するため、第5次行政改革プランでは、ふるさと納税の強化や公共施設の縮減などを通じて歳入確保と歳出削減を目指している。

【3】市内文化施設及び周辺施設の現状について

- ・武雄市文化会館大ホール(座席数1380)について、昭和50年に開館し50年以上が経過。これまでコンサートや音楽祭などの文化的イベント、行事などに利用されてきた。
- ・北方文化ホール(座席数482) 北方公民館にあるホールで平成元年に開館し37年経過。耐用年数残り13年余り。コンサートや式典や大会、文化活動の発表などに利用されている。

- ・山内農村環境改善センター内にある多目的ホール(座席数240席)。昭和61年に開館し40年経過。文化やスポーツ活動、文化祭や規模の小さな大会、式典などに利用されている。
- ・県西部近隣においては、1000席を超えるホールはなし。県内周辺自治体では、佐賀市、鳥栖市に文化会館があり、加えて令和5年度にSAGAサンライズパークがオープン。
- ・県外では、佐世保市のアルカス佐世保、長崎市の長崎ブリックホールに加え、最近では出島メッセ、長崎パピネスアリーナなど開館。2000席を超える大規模ホールが多く位置する。
- ・福岡県には、昨年3月に大ホールで2000席を要する新たに福岡市民ホールが開館。

【第1回においての質疑回答】

- ・文化会館におられた専門職の方が退職されたのはいつか。
⇒常勤職員として1名おられた。平成27年度末に退職されている。
- ・当初想定していた大ホールの改修分の予算を基金に積んで、ホール建設のために使用することができないか。
⇒基本計画時において、あくまで改修にかかる予算を想定していただけて、確保していたわけではない。
- ・大ホールの稼働率について、大ホールと小ホールの同時稼働ができない状況を踏まえ、検討してほしい。
⇒舞台、担当者の配置や駐車場の確保を鑑み、同時使用はおこなっていなかった。
大ホールの稼働率について、平成18年は54.8%、平成27年は44%、令和5年度は31.1%。ここ20年ぐらいで、20%以上の減少が見られる。

○意見

(委員A)

これまでは事業の専任職員がいて、芸能や落語などの興行を呼ぶ会社とのつながりがあったが、その方がいなくなり、その後の職員も異動で代わっていくため、その会社ともつながりが薄れていった。また、コロナで事業もできなくなった時期もあり、稼働率が減っていった。世の中の状況や職員配置の状況もあり稼働率が減っていった状況。

(事務局)

文化協会を中心に文化団体から意見をいただきながら事業を行っている。職員の異動もあるができたことをやってきた。しかし、文化会館の稼働率が全国平均と比較して低い状況にあった。特に令和5年度の稼働率が30.1%と全国平均の60.3%を大きく下回っている。

(委員B) 30.1%は年間の稼働率か。

(事務局)→午前、午後、夜間などの区分を踏まえた年間を通しての稼働率。

(委員B) 1日に午前午後と使えば2回でカウントされるのか

(事務局)→ご認識のとおり

(委員C)

大ホール、小ホールが同時稼働できない状況だったので単純に比較はできないと感じる。

→(事務局)

同時稼働できない状況であったが、同時稼働できたとしても、施設自体も古くなり、他市町にも新しいホールができてきた状況なので、文化会館の大ホールを利用いただけたとは限らない。

【4】パブリックコメントに出されたご意見について

- ・大ホールの整備方針の見直しに関するパブリックコメントでは、廃止解体方針に反対する意見が多く寄せられた一方で、賛成意見もいただいた。

【5】他自治体等の事例について

＜黒澤顧問＞

- ・1990年代において、タイでは美術館が不足していたため、学生や教授が自主的にアートフェスティバルを開催し、世界中のアーティストを招待して活動を行った。この活動は予算がない中で手弁当で行われ、学生たちが積極的に準備を手伝い、成功を収めた。
- ・金沢市では市庁舎のエントランスホールで月に一度ランチタイムコンサートを開催しており、年間で3600人以上が参加している。この活動は低コストで多くの人々を文化活動に関与させることに成功している。
- ・アウトリーチ事業として、学校や保育園、児童館などでアーティストが活動を行い、子どもたちとの交流を深めるプログラムが実施されている。これにより、子どもたちが写真撮影やアート活動を通じて新たな表現を学ぶ機会が提供されている。
- ・金沢市では、空き家や公共施設を活用してアートプログラムを展開する「金沢ナイトミュージアム」を実施している。これにより、地域の多様な場所でアート活動が行われ、アーティストと地域住民の交流が促進されている。

＜本田委員＞

- ・日本の文化施設の改修においては、建築基準法の改正により特定天井の安全性が求められるようになり、改修費用が増加している。また、障害者の文化芸術活動を推進する法律に基づき、バリアフリー化や多目的トイレの設置が必要となっている。
- ・劇場設備のデジタル化やLED照明の導入が進んでおり、これにより舞台演出や会議の効率化が図られている。また、客席のサイズ変更により座席数が減少することがあり、施設の改修計画に影響を与えている。
- ・文化施設の改修では、現行の法律や基準を満たすだけでなく、将来のニーズに対応できる高機能で快適な施設を目指すことが求められている。これにより、地域社会における文化活動の活性化が期待されている。

○意見・質疑

(委員D)

本委員会の役割や検討の範囲について確認したい。本日は大ホールの問題を中心に議論するのか、あるいは文化振興全体を含めて検討するのか。

→(事務局)

武雄市内の他の文化施設含めて全体的に整理していく必要があると考える。先に今後の人口減少、財政状況、公共施設等総合管理計画の中で市が置かれている状況として施設を減らしていくことが重要。文化の振興も大事と考えるので、その中でどのような文化振興やひとづくりを進めていくかの両輪で検討していただきたいと考える。

→(委員長)

本日は、大ホールの今後のあり方について検討を進めるにあたり、財政状況や人口動態、他自治体の事例等を踏まえながら、委員の皆様から幅広くご意見をいただきたい。

→(委員D)

これまでの経緯から、大ホールの解体を前提とした議論が進められているものと認識していたが、そういうことでもないのか。

→(委員長)

パブリックコメントでは、大ホールのあり方に関して様々な意見が寄せられるとともに、検討の進め方やプロセスについても意見があった。そのため、本委員会では改めて市民の意見を踏まえながら、大ホールの今後のあり方や文化活動を支える環境について幅広く検討することとしている。

施設のあり方だけでなく、文化活動や人づくりの視点も含めて議論を深めていきたいので、委員の皆様から率直なご意見をいただきたい。

・(委員A)

まちなかでの文化活動は工夫をして現在行っている。学校のアウトリーチも続けている。文化団体としては、大きい団体が演奏できる大きいホールが必要。

少ない人数なら街中でも可能。自分たちのサークル活動、部活動が演奏できるホールが欲しい。残してほしい人たちは次新しいホールができるならあきらめられると思うが、ただ壊すというだけでは納得しないだろう。他の文化団体は小ホールを残してほしいと要望されていたが、大ホールが残るなら小ホールはあきらめた。それなのに小ホールも大ホールもなくなって、今後、聞いてもらう場所がなくなるのは困る。

・(委員 D)

大ホールをなくすという話はどこから出てきているのか。議会の委員会でも解体して終わるという話にはなっていない。仮に大ホールを改修するとなれば、1年に1億3千万円くらいの維持管理費がかかる。改修費には20億円くらいかかる。当初の大ホール建設費は約8億円だったが、オイルショックで倍程度に膨れた。作るとなれば今の状況で20億円ではできない。今の状態で使い続けることは難しいので、必ず新しいホールを造るという担保はあってよいと思う。ただし、今は財政的に厳しい状況であれが、何十年か先に財政的に余力があればホールを必ず造るという担保をとっておいた方がよいと思う。

(事務局)

→当初の改修20億円から30億円に膨らんだ。30年間の改修費もかかる。30年間維持するために42億円程度の費用が必要。同規模のホールを造るとなると100億円超える費用がかかるため、今の財政状況から現実的ではないと考える。仮に作るとしても将来的な財政状況次第になるだろう。

・(委員 E)

まちの文化の将来をどうしていこうとするのかが一番大事なテーマになるだろう。

武雄の文化状況をどうしていくのか。あらゆる人の文化活動へのアクセスが可能かつ自分がやろうと思えばできる、質の高いものに限らず日常的な活動も含めどういう活動があれば町が活性化するか、帰ってきたいと思えるまちとなっていくのかが大事なこと。

ホールがなくなることへの悲壮感はあるが、発表の場が必要ということもわかる。

スポーツ施設が代替えできるかどうかに対する議論もよいとは思いますが、ホールはかなりコストがかかる。プロモーターがホールを必ず選んでくれるとは限らない。アウトリーチなど街中であらゆる文化活動をするためには専門職は必要。専門チームをどうリードして作ってどう機能させていくか含め将来の武雄市の文化の在り方のために一番必要なこと

かつできることからやっていくそのための体制づくりを考えていけないといけないと思う。それでやはりこの場所が必要ということであれば、それはそれで議論していけばいいのでは。

・(委員 F)

できるだけいい施設がいいということは大前提だが、経済・社会状況が変わってきている現状は目をそらすことはできない。建物を作るにしても運営するにしても公的なお金がないとやっていけない。市の職員は文化活動を行っている人にだけ目を向けているわけではない。全体のバランスを見て予算を配分し、最終的に議員が判断をくだすプロセスかと思う。50年たった大ホールを改修する道があるのかどうかに絞って説明をした。

結果的に、今のホールを改修するとなってもかなりの費用が掛かってくる上に今後20年くらいしか使えないだろう。それなのに何十億もかけて改修していくのが有効かどうかは疑問に思う。であれば、既存の北方文化ホールや山内の改善センター、新文化交流施設を併用して小さくしても新たにホールを造るかはみなさんと議論いただくしかない。第三者の立場でこれがいいとは申し上げにくい。ただ、文化の火を消さない、発表の場を残すということだけではない。地域にどのような文化を残していくかはいろいろな方法があるので、その可能性も含めて皆さんで議論いただき、大ホールをどうするかをもう一度冷静に議論してはどうか。

→(委員長)

ホールの今後のあり方については、解体後の文化活動の場がどのように確保されるのかが見えない中では、判断が難しいという意見がある一方で、山内や北方のホールの活用についても意見が出されている。

また、仮に大ホールを改修または更新した場合でも、将来的には他の文化施設を含めた全体のあり方を考えていく必要がある。また、他の文化施設との関係や文化活動を支える環境についても議論を深めていく必要もあると認識している。

そのうえで、本日はまず大ホールの今後のあり方を中心にご意見をいただきたい。大ホールの改修や解体を含めた今後の方向性について、委員の皆様それぞれの率直なお考えをお聞かせいただきたい。

・(委員 G)

武雄市には文化会館だけでなく、陶芸や温泉など長く受け継がれてきた地域の文化資源があり、それらを次の世代へ引き継いでいく視点も大切であると感じている。

また、将来の武雄市のあり方を考える上では、一度市外へ出た若い世代がどのようなまちを望んでいるのかという視点も重要ではないか。財政面も考慮しながら、今ある地域資源を活かし、これからの武雄市の文化やまちづくりについて考えていく必要がある。

様々な立場の意見を聞きながら、今後の方向性を検討していきたい。

→(委員長)

文化活動を支える環境や施設のあり方については、ソフト面・ハード面の双方から検討していく必要がある。本日いただいた意見も踏まえながら、今後は市民との座談会を通じて幅広い意見を伺い、その内容も反映しながら次回以降の議論を進めていきたい。

→(事務局)

市民から幅広くご意見をお聞きするため、7月下旬～8月上旬にかけて座談会を中学校区

単位で行う予定。座談会でのご意見を踏まえて10月～11月に第3回検討委員会、1月に第4回委員会を開催し、1月に報告書をまとめていただくスケジュール。

→(委員長)

座談会において市民の皆様から幅広い意見を伺うためにも、委員会として現在の課題や論点を整理しておくことが重要であると考えている。本日いただいた意見も踏まえながら、今後の検討の方向性について議論を深めていきたい。

→(委員 G)

各委員の意見は既に決まっているはず。人の意見を聞いたからといって自分の意見が変わるわけではないと思うが、人の意見も非常に重要。これからの若い人たちのご意見をもう少しとらえたほうがいいと思う。

(委員長)

改修するか解体した方がいいか究極の2択を迫るものではない。3回目での議論でも構わない。他の事例を入れたのは、建物のハード面だけだと、将来的に人口減少もあるが、武雄に残る子どもたちがどのような文化活動をしていきたいのか、それだけでなく、もともとからある伝統的な武雄の文化を守るという側面もあり、ハード面でなく、ひとづくりの側面で考えていったらいいのかの事例をお話いただいた。施設そのものだけの話ではないことも含めて議論していくことが重要と考える。

・(委員 H)

世代的にも高校の時に文化会館着工。喪失感を問題視したい。
センチュリーホテルを何度も活用していたが、なくなった時の喪失感は膨大だった。
ある時とない時の差があまりにも大きかった。今は再開され、やっと元に戻りつつある。
在住は鹿島だが、新幹線ルートが当初の鹿島から別ルートへ変わった時の喪失感。
大ホールは武雄市の歴史の中で中心にあると思う。改修しないといけない状況なのであれば、改修でよいと思う。改修に数十億かけても30年しか持たないと懸念されるが、30年持てば立派な方だと思う。30年で社会は大きく変わる。30年後の社会がもう一つの世代になり得ると考える。改修で30年持たせるべきという強い見解を持っている。

・(委員 I)

大ホールを視察し、改修が現実的ではないと感じた。
パブリックコメントを見てプロセスの不透明性について多く意見が書かれていた印象。
例えば、つくると担保した場合も踏まえた、文化活動におけるビジョンもこういうことができますよ、やれますよとか、次の多目的ホールに関してもできることできないことがあると思うので、そういった部分を全面的に出した上で、ただ、改修の場合で、じゃあ何もしなくていいとかじゃなくて、この文化活動っていうのが、こういうふうに武雄でやっていきますよ。ていうのがつくれば、ある程度の納得感はあるんじゃないかなと。

・(委員 J)

3点。1点目は子どもたちの感受性、想像力、それからクリエイティブ含めて、この芸術文化は本当に大事だと思っている。子どもたちのいろんな面を育てていくときに、芸術が効果があるという形を将来も左右しかねないと思っている。
実際学校でも、芸術鑑賞会をして、学校で12月に大阪フィルハーモニーに来てもらってコンサートを予定している。

そういう各学校は子どもたちの芸術を大切にしていこうというところは、これからも続けていかないといけない。

それから2点目は、今日、実際の大ホールを見学させてもらってよかったと思っている。状況を見たときに、私は率直に、存続改修は難しいと感じる。

あそこに子どもを入れて芸術鑑賞したときに安全面とか、子どもたちのあそこに入ったときの気持ちを考えると、本当にそれでいいのかというのを感じた。

それから3点目は、この、先ほどの大ホールが、使えないとなったときにその北方の文化ホールや、山内の多目的ホールでどれくらい対応ができるのか。

確かに、中高生の合唱とか、それから、部活動とかの発表の場というところで、ホールが絶対必要なのであれば、武雄市も今後何年かかけて、財政努力等して、新しいものを作るというのは、必要になるかもしれない。

今後残っている、残るだろうというところは限界があるが、そこで、子どもたちのために、どういう形でやっていけるのかというのを私たち真剣に考えないといけないと思っている。

先ほど出たように、次の世代の子どもたち、子育てのために、私たちが何をどう残すかというのは重大だなと思っている。そういう意味で、皆さんの意見も大事だし、市民の皆さんも意見が大事だと思っている。

・(委員 B)

北方文化ホールが平成元年にできた。500名ほどの集客ができるが、これまで2回冠水し、空調など改修した経緯有。今日、大ホール視察したが、改修してもかなりかかる。文化も大事だが、地域の環境インフラにも回して欲しい。道路の整備全くできていない。周辺部は交通安全の面からインフラ整備なっていない。立て直すのは反対。残しても維持費はかかるのでもったいない。解体して、北方や山内の耐用年数が来てからいよいよ使えないときに何十年か先のことを考えながら検討すべきで今の施設は解体すべき。代替えとして北方と山内、新施設の多目的ホールもある。

多目的ホールも300人入ることなので、この施設を利用すればよい。

パブリックコメントの142件はホールを利用されている人から出た言葉だと思うが、4万分の142だと思っている。

・(委員 A)

後からホールができるからとわかっていたら、大ホールを壊して構わない。壊すか改修の2択となれば、どちらともいえない。

・(委員 D)

ワンスポができたが、ワンスポは意外と響かない。天井高いから響かないと思われるので、音楽もできるのではと思っている。ワンスポに最大限の努力をして響きを少なくする等すれば、使用することが十二分に可能ではと感じた。

・(委員 C)

大ホールは解体する、しないの2択だと、解体してどうするかがないと何とも言えない。

専門ホールが必要であるかないかの2択だと必要。北方、山内は演奏したことがある。

大ホールの演奏はないが、大ホールの設備と比べると代替の施設としては使えないと感じた。どこに文化施設の拠点があればいいか考えると、中心部の今の場所に設備が

整ったホールがあってほしい。ソフト面では人材育成、子どもたちへのアウトリーチ事業

など参考になったが、人材を育てても、育った人材は専門ホールのあるところに流出して

しまう。

市内在住の利用者は安く利用できていたが、鹿島市や他市町村のホールを利用してしまくと割増料金になってしまうので、そうなれば利用する施設のある自治体に住んだ方が文化拠点としてはいいなと思うのが文化を生業としている身としては自然かなと感じる。これから市民団体に加入して活動するときにちゃんとしたホールで練習できるところに行きたい等、文化環境だけを見たときに武雄市に残って文化活動する人がどれだけいるのかと考えると、拠点として大ホール1380席必要かは検討が必要だと思うが、専門的な施設をあったものをなくすというのが喪失感と市民感情につながっていると思う。文化拠点を残していくのが必要と感じた。

→(委員長)

大ホールの今後のあり方については、施設そのものの問題だけでなく、将来にわたって文化活動をどのように支えていくのかという視点や、財政面も含めて総合的に考えていく必要があることを改めて感じた。

本日の議論を踏まえ、一度論点を整理した上で、次回はより建設的な議論につなげていきたい。また、座談会でいただく市民の皆様の意見も参考にしながら、引き続き議論を深めていきたい。

本日の委員の皆様からのご意見については、第3回委員会における検討事項として整理していきたい。

【6】今後の議論の進め方について

(2)座談会の進め方について

【開催時期】7月21日～8月10日の間で5回開催予定(中学校区単位)

【開催形式】事前申込制(席に余裕があれば、当日参加も参加可)

グループ討議 進行:ファシリテーター

【周知方法】市報(7月号)、HPなど

【テーマ(案)】

「今後、武雄市の文化活動を推し進めるために必要なことはなにか」

施設の必要性や持続的な文化活動のための人づくりについても議論を予定している。

3. その他

- ・座談会での意見を整理して10月から11月の間に第3回検討委員会を予定している。日程が決まり次第、詳細を案内予定。

4. 閉会

理事		課長 室長		係長		係員	
----	--	----------	--	----	--	----	--